

正

【確報版】海水核種分析結果<茨城県沖合>

採取場所	高戸小浜海岸沖合3km		久慈浜海岸沖合3km		大洗海岸沖合3km		平井海岸沖合3km		波崎海岸沖合3km		②炉規則告示濃度限度 Bq/cm <sup>3</sup> (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日時	平成23年5月11日 9時03分		平成23年5月11日 8時02分		平成23年5月11日 10時53分		(6) 平成23年5月11日 7時30分		平成23年5月11日 8時48分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 (①/②)									
I-131 (約8日)	検出限界未満	-	4E-02								
Cs-134 (約2年)	検出限界未満	-	6E-02								
Cs-137 (約30年)	検出限界未満	-	9E-02								
Mo-99 (約66時間)	検出限界未満	-	(1) 1E+00								
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	-	4E+01								
Te-129m (約34日)	検出限界未満	-	3E-01								
Te-129 (約70分)	検出限界未満	-	1E+01								
Te-132 (約3日)	検出限界未満	-	2E-01								
I-132 (約2時間)	検出限界未満	-	3E+00								
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	-	3E-01								
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	-	3E-01								
La-140 (約2日)	検出限界未満	-	4E-01								

※ ○.○E-○とは、○.○×10<sup>-○</sup>と同じ意味である。  
 ※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

誤

【確報版】海水核種分析結果<茨城県沖合>

採取場所	高戸小浜海岸沖合3km		久慈浜海岸沖合3km		大洗海岸沖合3km		平井海岸沖合3km		波崎海岸沖合3km		②炉規則告示濃度限度 Bq/cm <sup>3</sup> (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日時	平成23年5月11日 9時03分		平成23年5月11日 8時02分		平成23年5月11日 10時53分		平成23年5月11日 8時48分		平成23年5月11日 7時30分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 (①/②)									
I-131 (約8日)	検出限界未満	-	4E-02								
Cs-134 (約2年)	検出限界未満	-	6E-02								
Cs-137 (約30年)	検出限界未満	-	9E-02								
Mo-99 (約66時間)	検出限界未満	-	4E+01								
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	-	4E+01								
Te-129m (約34日)	検出限界未満	-	3E-01								
Te-129 (約70分)	検出限界未満	-	1E+01								
Te-132 (約3日)	検出限界未満	-	2E-01								
I-132 (約2時間)	検出限界未満	-	3E+00								
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	-	3E-01								
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	-	3E-01								
La-140 (約2日)	検出限界未満	-	4E-01								

※ ○.○E-○とは、○.○×10<sup>-○</sup>と同じ意味である。  
 ※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

正

【確報版】福島第一 サブドレン等核種分析結果

採取場所	福島第一 1号機 サブドレン	福島第一 2号機 サブドレン	福島第一 3号機 サブドレン	福島第一 4号機 サブドレン	福島第一 5号機 サブドレン	福島第一 6号機 サブドレン	福島第一 構内深井戸
試料採取日時刻	平成23年6月20日 11時40分	平成23年6月20日 11時36分	平成23年6月20日 11時32分	平成23年6月20日 11時43分	平成23年6月20日 11時20分	平成23年6月20日 11時15分	平成23年6月20日 16時55分
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )						
I-131 (約8日)	検出限界未満	5.7E-01	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-134 (約2年)	3.2E+00	1.1E+01	8.6E-02	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-137 (約30年)	4.0E+00	1.3E+01	8.2E-02	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Nb-95 (約35日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Sb-125 (約3年)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Ag-110m (約250日)	(2) 検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Te-129 (約70分)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Te-129m (約34日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
La-140 (約2日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満

※ ○.○E-○とは、○.○×10<sup>-○</sup>と同じ意味である。  
 ※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。  
 代表3核種の検出限界値は次のとおり。I-131が約4E-2Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約2E-2Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約2E-2Bq/cm<sup>3</sup>。  
 ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

誤

【確報版】福島第一 サブドレン等核種分析結果

採取場所	福島第一 1号機 サブドレン	福島第一 2号機 サブドレン	福島第一 3号機 サブドレン	福島第一 4号機 サブドレン	福島第一 5号機 サブドレン	福島第一 6号機 サブドレン	福島第一 構内深井戸
試料採取日時刻	平成23年6月20日 11時40分	平成23年6月20日 11時36分	平成23年6月20日 11時32分	平成23年6月20日 11時43分	平成23年6月20日 11時20分	平成23年6月20日 11時15分	平成23年6月20日 16時55分
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )						
I-131 (約8日)	検出限界未満	5.7E-01	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-134 (約2年)	3.2E+00	1.1E+01	8.6E-02	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-137 (約30年)	4.0E+00	1.3E+01	8.2E-02	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Nb-95 (約35日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Sb-125 (約3年)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Ag-110m (約250日)	6.6E-02	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Te-129 (約70分)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Te-129m (約34日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
La-140 (約2日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満

※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10<sup>-〇</sup>と同じ意味である。  
 ※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。  
 代表3核種の検出限界値は次のとおり。I-131が約4E-2Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約2E-2Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約2E-2Bq/cm<sup>3</sup>。  
 ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

正

【確報版】福島第一 サブドレン等核種分析結果

採取場所	福島第一 1号機 サブドレン	福島第一 2号機 サブドレン	福島第一 3号機 サブドレン	福島第一 4号機 サブドレン	福島第一 5号機 サブドレン	福島第一 6号機 サブドレン	福島第一 構内深井戸
試料採取日時刻	平成23年6月29日 12時27分	平成23年6月29日 12時17分	平成23年6月29日 12時13分	平成23年6月29日 11時55分	平成23年6月29日 12時02分	平成23年6月29日 11時58分	平成23年6月29日 9時50分
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )						
I-131 (約8日)	検出限界未満	3.0E-01	1.3E-01	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-134 (約2年)	3.1E+00	9.1E+00	3.1E-01	1.4E-02	検出限界未満	9.7E-03	検出限界未満
Cs-137 (約30年)	3.8E+00	1.1E+01	4.0E-01	2.4E-02	検出限界未満	1.1E-02	検出限界未満
Nb-95 (約35日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Sb-125 (約3年)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Ag-110m (約250日)	(2) 2.6E-02	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Te-129 (約70分)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Te-129m (約34日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
La-140 (約2日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満

※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10<sup>-〇</sup>と同じ意味である。  
 ※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。  
 代表3核種の検出限界値は次のとおり。I-131が約3E-2Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約6E-3Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約7E-3Bq/cm<sup>3</sup>。  
 ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

誤

【確報版】福島第一 サブドレン等核種分析結果

採取場所	福島第一 1号機 サブドレン	福島第一 2号機 サブドレン	福島第一 3号機 サブドレン	福島第一 4号機 サブドレン	福島第一 5号機 サブドレン	福島第一 6号機 サブドレン	福島第一 構内深井戸
試料採取日時刻	平成23年6月29日 12時27分	平成23年6月29日 12時17分	平成23年6月29日 12時13分	平成23年6月29日 11時55分	平成23年6月29日 12時02分	平成23年6月29日 11時58分	平成23年6月29日 9時50分
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )						
I-131 (約8日)	検出限界未満	3.0E-01	1.3E-01	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-134 (約2年)	3.1E+00	9.1E+00	3.1E-01	1.4E-02	検出限界未満	9.7E-03	検出限界未満
Cs-137 (約30年)	3.8E+00	1.1E+01	4.0E-01	2.4E-02	検出限界未満	1.1E-02	検出限界未満
Nb-95 (約35日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Sb-125 (約3年)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Ag-110m (約250日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Te-129 (約70分)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Te-129m (約34日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満
La-140 (約2日)	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満	検出限界未満

※ 〇.〇E-〇とは、〇.〇×10<sup>-〇</sup>と同じ意味である。  
 ※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。  
 代表3核種の検出限界値は次のとおり。I-131が約3E-2Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約6E-3Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約7E-3Bq/cm<sup>3</sup>。  
 ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

採取場所	福島第一 1～4号機 取水口内南側海水										
試料採取日	平成23年5月15日 7時16分										
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
I-131 (約8日)	270	6.8									40
Cs-134 (約2年)	1,400	23									60
Cs-137 (約30年)	1,500	17									90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—									1,000
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—									200
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—									40,000
Cs-136 (約13日)	(2) 14	0.05									300
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—									300
La-140 (約2日)	21	0.05									400

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

採取場所	福島第一 1～4号機 取水口内南側海水										②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年5月15日 7時16分										
試料採取日 時刻	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	270	6.8									40
Cs-134 (約2年)	1,400	23									60
Cs-137 (約30年)	1,500	17									90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—									1,000
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—									200
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—									40,000
Cs-136 (約13日)	140	0.47									300
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—									300
La-140 (約2日)	21	0.05									400

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

採取場所	福島第一 2号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年5月28日 6時34分		平成23年5月28日 6時48分		平成23年5月28日 6時44分		平成23年5月28日 6時48分		平成23年5月28日 6時44分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)									
I-131 (約8日)	24,000	600	410	10	720	18	410	10	160	4.0	40
Cs-134 (約2年)	4,100	68	1,300	22	5,100	85	4,700	78	4,500	75	60
Cs-137 (約30年)	4,300	48	1,400	16	5,400	60	5,100	57	4,800	53	90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—	1,000								
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—	200								
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—	40,000								
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	620	(3) 0.06	10,000
Cs-136 (約13日)	19	0.06	検出限界未満	—	23	0.08	検出限界未満	—	21	0.07	300
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—	300								
La-140 (約2日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	11	0.03	検出限界未満	—	400

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における海水の放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。

# 誤

## 【確報版】 福島第一 物揚場前、1～4号スクリーン、1～4号取水口内 海水核種分析結果<2/3>

採取場所	福島第一 2号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年5月28日 6時34分		平成23年5月28日 6時48分		平成23年5月28日 6時44分		平成23年5月28日 6時48分		平成23年5月28日 6時44分		
試料採取日 時刻	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)									
I-131 (約8日)	24,000	600	410	10	720	18	410	10	160	4.0	40
Cs-134 (約2年)	4,100	68	1,300	22	5,100	85	4,700	78	4,500	75	60
Cs-137 (約30年)	4,300	48	1,400	16	5,400	60	5,100	57	4,800	53	90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—	1,000								
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—	200								
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—	40,000								
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	620	0.10	10,000
Cs-136 (約13日)	19	0.06	検出限界未満	—	23	0.08	検出限界未満	—	21	0.07	300
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—	300								
La-140 (約2日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	11	0.03	検出限界未満	—	400

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における海水の放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。

採取場所	福島第一 2号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年6月29日 7時07分		平成23年6月29日 7時10分		平成23年6月29日 7時13分		平成23年6月29日 7時17分		平成23年6月29日 7時19分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)									
I-131 (約8日)	270	6.8	49	1.2	98	2.5	40	1.0	40	1.0	40
Cs-134 (約2年)	860	14	230	3.8	4,500	75	270	4.5	1,200	20	60
Cs-137 (約30年)	940	10	270	3.0	4,800	53	280	3.1	1,300	14	90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	15	(3) 0.02	検出限界未満	—	検出限界未満	—	1,000
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—	200								
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—	40,000								
Te-129m (約34日)	検出限界未満	—	300								
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—	10,000								
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	—	300								
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—	300								
La-140 (約2日)	検出限界未満	—	400								

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における海水の放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。

# 誤

## 【確報版】 福島第一 物揚場前、1～4号スクリーン、1～4号取水口内 海水核種分析結果<2/3>

採取場所	福島第一 2号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年6月29日 7時07分		平成23年6月29日 7時10分		平成23年6月29日 7時13分		平成23年6月29日 7時17分		平成23年6月29日 7時19分		
試料採取日 時刻	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)									
I-131 (約8日)	270	6.8	49	1.2	98	2.5	40	1.0	40	1.0	40
Cs-134 (約2年)	860	14	230	3.8	4,500	75	270	4.5	1,200	20	60
Cs-137 (約30年)	940	10	270	3.0	4,800	53	280	3.1	1,300	14	90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	15	0.0	検出限界未満	—	検出限界未満	—	1,000
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—	200								
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—	40,000								
Te-129m (約34日)	検出限界未満	—	300								
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—	10,000								
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	—	300								
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—	300								
La-140 (約2日)	検出限界未満	—	400								

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における海水の放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。

正

【確報版】 福島第一 物揚場前、1～4号スクリーン、1～4号取水口内 海水核種分析結果<3/3>

採取場所	福島第一 1～4号機 取水口内南側海水										②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年6月29日 7時25分										
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	47	(3) 1.2									40
Cs-134 (約2年)	200	3.3									60
Cs-137 (約30年)	220	2.4									90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—									1,000
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—									200
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—									40,000
Te-129m (約34日)	検出限界未満	—									300
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—									10,000
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	—									300
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—									300
La-140 (約2日)	検出限界未満	—									400

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値  
 ※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。  
 ※ 本分析における海水の放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。

# 誤

## 【確報版】 福島第一 物揚場前、1～4号スクリーン、1～4号取水口内 海水核種分析結果<3/3>

採取場所	福島第一 1～4号機 取水口内南側海水										②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年6月29日 7時25分										
試料採取日 時刻	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	47	1.18									40
Cs-134 (約2年)	200	3.3									60
Cs-137 (約30年)	220	2.4									90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—									1,000
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—									200
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—									40,000
Te-129m (約34日)	検出限界未満	—									300
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—									10,000
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	—									300
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—									300
La-140 (約2日)	検出限界未満	—									400

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における海水の放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。

正

【確報版】 福島第一 物揚場前、1～4号スクリーン、1～4号取水口内 海水核種分析結果<1/3>

採取場所	福島第一 物揚場前海水		福島第一 1～4号機 取水口内北側海水		福島第一 1号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 1号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 2号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年7月6日 7時16分		平成23年7月6日 7時28分		平成23年7月6日 7時35分		平成23年7月6日 7時35分		平成23年7月6日 7時45分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	検出限界未満	—	19	(3) 0.48	26	(3) 0.65	検出限界未満	—	34	(3) 0.85	40
Cs-134 (約2年)	77	1.3	350	5.8	320	5.3	320	5.3	380	6.3	60
Cs-137 (約30年)	87	(3) 0.97	380	4.2	360	4.0	340	3.8	380	4.2	90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	1,000
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	200
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	40,000
Te-129m (約34日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	300
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	10,000
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	300
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	300
La-140 (約2日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	400

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値  
 ※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。  
 ※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。  
 代表3核種の検出限界値は次のとおり。I-131が約21Bq/L。  
 ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

# 誤

【確報版】 福島第一 物揚場前、1～4号スクリーン、1～4号取水口内 海水核種分析結果<1/3>

採取場所	福島第一 物揚場前海水		福島第一 1～4号機 取水口内北側海水		福島第一 1号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 1号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 2号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年7月6日 7時16分		平成23年7月6日 7時28分		平成23年7月6日 7時35分		平成23年7月6日 7時35分		平成23年7月6日 7時45分		
試料採取日 時刻	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	検出限界未満	—	19	0.5	26	0.7	検出限界未満	—	34	0.9	40
Cs-134 (約2年)	77	1.3	350	5.8	320	5.3	320	5.3	380	6.3	60
Cs-137 (約30年)	87	1.0	380	4.2	360	4.0	340	3.8	380	4.2	90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	1,000
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	200
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	40,000
Te-129m (約34日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	300
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	10,000
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	300
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	300
La-140 (約2日)	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	検出限界未満	—	400

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値  
 ※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。  
 ※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。  
 代表3核種の検出限界値は次のとおり。I-131が約21Bq/L。  
 ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

採取場所	福島第一 2号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年7月6日 7時46分		平成23年7月6日 7時56分		平成23年7月6日 7時59分		平成23年7月6日 7時57分		平成23年7月6日 7時58分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)									
I-131 (約8日)	45	1.1	26	(3) 0.65	検出限界未満	—	31	(3) 0.78	25	(3) 0.63	40
Cs-134 (約2年)	510	8.5	400	6.7	4,000	(3) 67	380	6.3	470	7.8	60
Cs-137 (約30年)	540	6.0	430	4.8	4,300	(3) 48	420	4.7	480	5.3	90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—	1,000								
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—	200								
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—	40,000								
Te-129m (約34日)	検出限界未満	—	300								
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—	10,000								
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	—	300								
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—	300								
La-140 (約2日)	検出限界未満	—	400								

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。

代表3核種の検出限界値は次のとおり。I-131が約47Bq/L。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

採取場所	福島第一 2号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 3号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス外側)		福島第一 4号機スクリーン海水 (シルトフェンス内側)		②炉規則告示 濃度限度 (Bq/L) (別表第2第六欄 周辺監視区域外の 水中の濃度限度)
試料採取日	平成23年7月6日 7時46分		平成23年7月6日 7時56分		平成23年7月6日 7時59分		平成23年7月6日 7時57分		平成23年7月6日 7時58分		
試料採取日 時刻	①試料濃度 (Bq/L)	倍率 (①/②)									
I-131 (約8日)	45	1.1	26	0.7	検出限界未満	—	31	0.8	25	0.6	40
Cs-134 (約2年)	510	8.5	400	6.7	4,000	66.7	380	6.3	470	7.8	60
Cs-137 (約30年)	540	6.0	430	4.8	4,300	47.8	420	4.7	480	5.3	90
Mn-54 (約313日)	検出限界未満	—	1,000								
Co-60 (約5年)	検出限界未満	—	200								
Tc-99m (約6時間)	検出限界未満	—	40,000								
Te-129m (約34日)	検出限界未満	—	300								
Te-129 (約70分)	検出限界未満	—	10,000								
Cs-136 (約13日)	検出限界未満	—	300								
Ba-140 (約13日)	検出限界未満	—	300								
La-140 (約2日)	検出限界未満	—	400								

※ 炉規則告示濃度は、「Bq/cm<sup>3</sup>」の表記を「Bq/L」に換算した値  
 ※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。  
 ※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「検出限界未満」と記載。  
 代表3核種の検出限界値は次のとおり。I-131が約47Bq/L。  
 ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。

福島第一原子力発電所 土壤中のU測定結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	U-234	U-235	U-238
①グラウンド(西北西約 500m)	3月28日 日本分析 センター	12±0.6	0.50±0.086	12±0.6
③産廃処分場近傍(南南西約 500m)		4.4±0.27	0.23±0.057	4.3±0.27
天然ウラン比放射能 (Bq/g)		1.2 × 10 <sup>4</sup>	5.7 × 10 <sup>2</sup>	1.2 × 10 <sup>4</sup>
天然ウラン存在比 (wt%)		0.0054	0.72	99.3

2. 評価

今回検出されたウランは以下により、天然に存在するものと同じレベルと評価する。

- ・自然界のウランは放射平衡 (U-234 と U-238 の放射能濃度が同じ) になっているが試料番号①、③ともに U-234 と U-238 の放射能濃度が同じである
- ・天然の U-235 の存在比  $U-235/U-238=0.0073$  とほぼ同じであること

試料番号①のU-235:  $6.2 \times 10^{-6}g$  (0.5Bq/kg乾土)

試料番号①のU-238:  $9.6 \times 10^{-4}g$  (12Bq/kg乾土)

U-235/U-238=0.0065 (2)  $\doteq$  0.0073

試料番号③のU-235:  $2.9 \times 10^{-6}g$  (0.23Bq/kg乾土)

試料番号③のU-238:  $3.5 \times 10^{-4}g$  (4.3Bq/kg乾土)

U-235/U-238=0.0083 (2)  $\doteq$  0.0072

以 上



福島第一原子力発電所 土壤中のU測定結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	U-234	U-235	U-238
①グラウンド(西北西約 500m)	3月28日 日本分析 センター	12±0.6	0.50±0.086	12±0.6
③産廃処分場近傍(南南西約 500m)		4.4±0.27	0.23±0.057	4.3±0.27
天然ウラン比放射能 (Bq/g)		$1.2 \times 10^4$	$5.7 \times 10^2$	$1.2 \times 10^4$
天然ウラン存在比 (wt%)		0.0054	0.72	99.3

2. 評価

今回検出されたウランは以下により、天然に存在するものと同じレベルと評価する。

- ・自然界のウランは放射平衡 (U-234 と U-238 の放射能濃度が同じ) になっているが試料番号①、③ともに U-234 と U-238 の放射能濃度が同じである
- ・天然の U-235 の存在比  $U-235/U-238=0.0073$  とほぼ同じであること

試料番号①のU-235:  $6.2 \times 10^{-6}g$  (0.5Bq/kg乾土)

試料番号①のU-238:  $9.6 \times 10^{-4}g$  (12Bq/kg乾土)

$U-235/U-238=0.0064 \approx 0.0073$

試料番号③のU-235:  $2.9 \times 10^{-6}g$  (0.23Bq/kg乾土)

試料番号③のU-238:  $3.5 \times 10^{-4}g$  (4.3Bq/kg乾土)

$U-235/U-238=0.0084 \approx 0.0072$

以上

福島第一原子力発電所 土壤中のU測定結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	U-234	U-235	U-238
①グラウンド(西北西約 500m)	4月11日 日本分析 センター	8.0±0.45	0.35±0.075	7.4±0.42
②野鳥の森(西約 500m)		7.5±0.44	0.43±0.090	6.7±0.41
③産廃処分場近傍(南南西約 500m)		3.9±0.29	N. D.	3.9±0.29
天然ウラン比放射能 (Bq/g)		1.2 × 10 <sup>4</sup>	5.7 × 10 <sup>2</sup>	1.2 × 10 <sup>4</sup>
天然ウラン存在比 (wt%)		0.0054	0.72	99.3

2. 評価

今回検出されたウランは以下により、天然に存在するものと同じレベルと評価する。

- ・自然界のウランは放射平衡 (U-234 と U-238 の放射能濃度が同じ) になっているが試料番号①、②、③すべてにおいてU-234 と U-238 の放射能濃度がほぼ同じである
- ・試料番号①、②の天然の U-235 の存在比  $U-235/U-238=0.0073$  とほぼ同じであること

試料番号①のU-235:  $4.4 \times 10^{-6}g$  (0.35Bq/kg乾土)

試料番号①のU-238: 5.9 (2)  $\times 10^{-4}g$  (7.4Bq/kg乾土)

$U-235/U-238=$ 0.0074 (2) $\doteq 0.0073$

試料番号②のU-235:  $5.4 \times 10^{-6}g$  (0.43Bq/kg乾土)

試料番号②のU-238:  $5.4 \times 10^{-4}g$  (6.7Bq/kg乾土)

$U-235/U-238=$ 0.0100 (2) $\doteq 0.0073$

以 上



福島第一原子力発電所 土壤中のU測定結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	U-234	U-235	U-238
①グラウンド(西北西約 500m)	4月11日 日本分析 センター	8.0±0.45	0.35±0.075	7.4±0.42
②野鳥の森(西約 500m)		7.5±0.44	0.43±0.090	6.7±0.41
③産廃処分場近傍(南南西約 500m)		3.9±0.29	N. D.	3.9±0.29
天然ウラン比放射能 (Bq/g)		$1.2 \times 10^4$	$5.7 \times 10^2$	$1.2 \times 10^4$
天然ウラン存在比 (wt%)		0.0054	0.72	99.3

2. 評価

今回検出されたウランは以下により、天然に存在するものと同じレベルと評価する。

- ・自然界のウランは放射平衡 (U-234 と U-238 の放射能濃度が同じ) になっているが試料番号①、②、③すべてにおいてU-234 と U-238 の放射能濃度がほぼ同じである
- ・試料番号①、②の天然の U-235 の存在比  $U-235/U-238=0.0073$  とほぼ同じであること

試料番号①のU-235:  $4.4 \times 10^{-6}g$  (0.35Bq/kg乾土)

試料番号①のU-238:  $6.0 \times 10^{-4}g$  (7.4Bq/kg乾土)

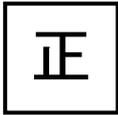
$U-235/U-238=0.0080 \approx 0.0073$

試料番号②のU-235:  $5.4 \times 10^{-6}g$  (0.43Bq/kg乾土)

試料番号②のU-238:  $5.4 \times 10^{-4}g$  (6.7Bq/kg乾土)

$U-235/U-238=0.0099 \approx 0.0073$

以上



福島第一原子力発電所 土壌Pu分析結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238	Pu-239, Pu-240
①グラウンド(西北西約 500m)	7月11日	$(1.6 \pm 0.14) \times 10^{-1}$	$(6.7 \pm 0.85) \times 10^{-2}$
②野鳥の森(西約 500m)	日本分析 センター	(2) N. D. ( $<1.0 \times 10^{-2}$ )	N. D. ( $<9.7 \times 10^{-3}$ )
③産廃処分場近傍(南南西約 500m)		N. D. ( $<1.1 \times 10^{-2}$ )	$(4.1 \pm 0.69) \times 10^{-2}$
国内の土壌*		N. D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N. D. $\sim 4.5$

※ : 文部科学省「環境放射線データベース」昭和 53 年～平成 20 年

※ : 「①グラウンド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

7月11日に検出されたPu-238とPu-239、240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、3/21以降にサンプリングした試料からPu-238およびPu-239、Pu-240が検出されている箇所もあるが、値に大きな変化は見られていない。

以上

福島第一原子力発電所 土壌Pu分析結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238	Pu-239, Pu-240
①グラウンド(西北西約 500m)	7月11日	$(1.6 \pm 0.14) \times 10^{-1}$	$(6.7 \pm 0.85) \times 10^{-2}$
②野鳥の森(西約 500m)	日本分析 センター	N. D. ( $<9.7 \times 10^{-3}$ )	N. D. ( $<1.0 \times 10^{-2}$ )
③産廃処分場近傍(南南西約 500m)		N. D. ( $<1.1 \times 10^{-2}$ )	$(4.1 \pm 0.69) \times 10^{-2}$
国内の土壌*		N. D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N. D. $\sim 4.5$

※ : 文部科学省「環境放射線データベース」昭和 53 年～平成 20 年

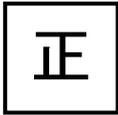
※ : 「①グラウンド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

7月11日に検出されたPu-238とPu-239、240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、3/21以降にサンプリングした試料からPu-238およびPu-239、Pu-240が検出されている箇所もあるが、値に大きな変化は見られていない。

以 上



福島第一原子力発電所 土壤中のSr分析結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Sr-89	Sr-90
①グラウンド(西北西約 500m)	6月13日	$(1.1 \pm 0.008) \times 10^3$	$(3.0 \pm 0.04) \times 10^2$
②野鳥の森(西約 500m)	日本分析	$(1.5 \pm 0.11) \times 10^1$	$(6.9 \pm 0.69) \times 10^0$
(6) ③産廃処分場近傍(南南西約 500m)	センター	$(1.1 \pm 0.008) \times 10^3$	$(3.2 \pm 0.04) \times 10^2$
過去の測定値の範囲*		—	ND~4.3

※ : 平成 21 年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書より (平成 11 年度~20 年度)

※ : 「①グラウンド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取 (採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

検出された Sr-90 の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以 上



福島第一原子力発電所 土壌中のSr分析結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Sr-89	Sr-90
①グラウンド(西北西約 500m)	6月13日	$(1.1 \pm 0.008) \times 10^3$	$(3.0 \pm 0.04) \times 10^2$
②野鳥の森(西約 500m)	日本分析	$(1.5 \pm 0.11) \times 10^1$	$(6.9 \pm 0.69) \times 10^0$
③産廃処分場近傍(南約 500m)	センター	$(1.1 \pm 0.008) \times 10^3$	$(3.2 \pm 0.04) \times 10^2$
過去の測定値の範囲※		—	ND~4.3

※ : 平成 21 年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書より (平成 11 年度~20 年度)

※ : 「①グラウンド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取 (採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

検出された Sr-90 の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以 上

福島第一原子力発電所 土壤中のSr分析結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Sr-89	Sr-90
①グラウンド(西北西約 500m)	7月11日	$(7.5 \pm 0.08) \times 10^2$	$(3.2 \pm 0.04) \times 10^2$
②野鳥の森(西約 500m)	日本分析	$(1.3 \pm 0.10) \times 10^1$	$(3.6 \pm 0.50) \times 10^0$
(6) ③産廃処分場近傍(南南西約 500m)	センター	$(9.3 \pm 0.30) \times 10^1$	$(4.0 \pm 0.17) \times 10^1$
過去の測定値の範囲*		—	ND~4.3

※ : 平成 21 年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書より (平成 11 年度~20 年度)

※ : 「①グラウンド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取 (採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

検出された Sr-90 の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以 上



福島第一原子力発電所 土壤中のSr分析結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Sr-89	Sr-90
①グラウンド(西北西約 500m)	7月11日	$(7.5 \pm 0.08) \times 10^2$	$(3.2 \pm 0.04) \times 10^2$
②野鳥の森(西約 500m)	日本分析	$(1.3 \pm 0.10) \times 10^1$	$(3.6 \pm 0.50) \times 10^0$
③産廃処分場近傍(南約 500m)	センター	$(9.3 \pm 0.30) \times 10^1$	$(4.0 \pm 0.17) \times 10^1$
過去の測定値の範囲※		—	ND~4.3

※ : 平成 21 年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書より (平成 11 年度~20 年度)

※ : 「①グラウンド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取 (採取不可となった時点でポイント変更)

2. 評価

検出された Sr-90 の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以 上

福島第一原子力発電所 土壤中のAm, Cmの測定結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238*1	Pu-239*1 Pu-240*1	U-234*2	U-235*2	U-238*2	Am-241	Cm-242	Cm-243 Cm-244
①グラウンド(西北西約500m)	3月28日 日本分析 センター	(2.6±0.22) ×10 <sup>-1</sup>	(1.2±0.14) ×10 <sup>-1</sup>	(12±0.6) ×10 <sup>0</sup>	(5.0±0.86) ×10 <sup>-1</sup>	(12±0.6) ×10 <sup>0</sup>	(3.3±0.64) ×10 <sup>-2</sup>	(4.0±0.15) ×10 <sup>0</sup>	(2.0±0.17) ×10 <sup>-1</sup>
②産廃処分場近傍(南南西約500m)		(5.1±0.83) ×10 <sup>-2</sup>	(2.6±0.58) ×10 <sup>-2</sup>	(4.4±0.27) ×10 <sup>0</sup>	(2.3±0.57) ×10 <sup>-1</sup>	(4.3±0.27) ×10 <sup>0</sup>	(1.8±0.51) ×10 <sup>-2</sup>	(1.4±0.07) ×10 <sup>0</sup>	(4.0±0.79) ×10 <sup>-2</sup>
1~3号機における平均核種濃度比(Pu-238を1とした場合の比)*3		1	—	—	—	—	0.1	10	1

\*1 : 平成23年4月6日公表    \*2 : 平成23年4月14日公表    \*3 : ORIGENコードによる計算値(概数)

2. 評価

今回検出されたAm及びCmは、以下の理由により、今回の事故に由来することが考えられる。

- ・ Cm-242/Cm-243/Cm-244 は自然界に存在しない核種であり、特に半減期の比較的短いCm-242(半減期:約160日)が検出されていること
- ・ 試料番号①、②のPu-238に対する各核種(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)の濃度比が1~3号機における平均組成比とほぼ同じであること

試料番号①のPu-238: (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.1/15/0.8 (2))

試料番号②のPu-238: (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.4/27/0.8)

以上



福島第一原子力発電所 土壤中のAm, Cmの測定結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238*1	Pu-239*1 Pu-240*1	U-234*2	U-235*2	U-238*2	Am-241	Cm-242	Cm-243 Cm-244
①グラウンド(西北西約500m)	3月28日 日本分析 センター	(2.6±0.22) ×10 <sup>-1</sup>	(1.2±0.14) ×10 <sup>-1</sup>	(12±0.6) ×10 <sup>0</sup>	(5.0±0.86) ×10 <sup>-1</sup>	(12±0.6) ×10 <sup>0</sup>	(3.3±0.64) ×10 <sup>-2</sup>	(4.0±0.15) ×10 <sup>0</sup>	(2.0±0.17) ×10 <sup>-1</sup>
②産廃処分場近傍(南南西約500m)		(5.1±0.83) ×10 <sup>-2</sup>	(2.6±0.58) ×10 <sup>-2</sup>	(4.4±0.27) ×10 <sup>0</sup>	(2.3±0.57) ×10 <sup>-1</sup>	(4.3±0.27) ×10 <sup>0</sup>	(1.8±0.51) ×10 <sup>-2</sup>	(1.4±0.07) ×10 <sup>0</sup>	(4.0±0.79) ×10 <sup>-2</sup>
1~3号機における平均核種濃度比(Pu-238を1とした場合の比)*3		1	—	—	—	—	0.1	10	1

\*1 : 平成23年4月6日公表    \*2 : 平成23年4月14日公表    \*3 : ORIGENコードによる計算値(概数)

2. 評価

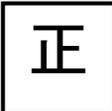
今回検出されたAm及びCmは、以下の理由により、今回の事故に由来することが考えられる。

- ・ Cm-242/Cm-243/Cm-244 は自然界に存在しない核種であり、特に半減期の比較的短いCm-242(半減期:約160日)が検出されていること
- ・ 試料番号①、②のPu-238に対する各核種(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)の濃度比が1~3号機における平均組成比とほぼ同じであること

試料番号①のPu-238: (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.1/15/0.7)

試料番号②のPu-238: (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.4/27/0.8)

以上



福島第一原子力発電所 土壌中のAm, Cm分析結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238*1	Pu-239*1 Pu-240*1	U-234*2	U-235*2	U-238*2	Am-241	Cm-242	Cm-243 Cm-244
①グラウンド(西北西約500m)	6月20日 日本分析 センター	(1.2±0.12) ×10 <sup>-1</sup>	(5.8±0.77) ×10 <sup>-2</sup>	(1.1±0.058) ×10 <sup>1</sup>	(5.7±0.97) ×10 <sup>-1</sup>	(1.2±0.059) ×10 <sup>1</sup>	(2.0±0.45) ×10 <sup>-2</sup>	(1.4±0.055) ×10 <sup>0</sup>	(9.5±0.98) ×10 <sup>-2</sup>
②野鳥の森(西約500m)		N. D. [<1.0×10 <sup>-2</sup> ]	(2.9±0.56) ×10 <sup>-2</sup>	(6.4±0.37) ×10 <sup>0</sup>	(4.0±0.79) ×10 <sup>-1</sup>	(6.2±0.35) ×10 <sup>0</sup>	N. D. [<9.7×10 <sup>-3</sup> ]	N. D. [<9.5×10 <sup>-3</sup> ]	N. D. [<9.5×10 <sup>-3</sup> ]
③産廃処分場近傍(南南西約500m)		(1.7±0.15) ×10 <sup>-1</sup>	(6.1±0.81) ×10 <sup>-2</sup>	(5.7±0.33) ×10 <sup>0</sup>	(2.2±0.55) ×10 <sup>-1</sup>	(5.7±0.33) ×10 <sup>0</sup>	(5.3±0.72) ×10 <sup>-2</sup>	(2.1±0.079) ×10 <sup>0</sup>	(1.0±0.11) ×10 <sup>-1</sup>
1~3号機における平均核種濃度比(Pu-238を1とした場合の比)*3		1	—	—	—	—	0.1	10	1

\*1 : 平成23年7月8日公表    \*2 : 平成23年7月21日公表    \*3 : ORIGENコードによる計算値(概数)

2. 評価

今回検出されたAm及びCmは、以下の理由により、今回の事故に由来することが考えられる。

- ・ Cm-242/Cm-243/Cm-244 は自然界に存在しない核種であり、特に半減期の比較的短いCm-242(半減期: 約160日)が検出されていること
- ・ 試料番号①③のPu-238に対する各核種(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)の濃度比が1~3号機における平均組成比とほぼ同じであること

試料番号① Pu-238: (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.2/12/0.8 (2))

試料番号③ Pu-238: (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.3/12/0.6)

以上

福島第一原子力発電所 土壌中のAm, Cm分析結果

1. 測定結果

(単位 : Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日 分析機関	Pu-238*1	Pu-239*1 Pu-240*1	U-234*2	U-235*2	U-238*2	Am-241	Cm-242	Cm-243 Cm-244
①グラウンド(西北西約500m)	6月20日 日本分析 センター	(1.2±0.12) ×10 <sup>-1</sup>	(5.8±0.77) ×10 <sup>-2</sup>	(1.1±0.058) ×10 <sup>1</sup>	(5.7±0.97) ×10 <sup>-1</sup>	(1.2±0.059) ×10 <sup>1</sup>	(2.0±0.45) ×10 <sup>-2</sup>	(1.4±0.055) ×10 <sup>0</sup>	(9.5±0.98) ×10 <sup>-2</sup>
②野鳥の森(西約500m)		N. D. [<1.0×10 <sup>-2</sup> ]	(2.9±0.56) ×10 <sup>-2</sup>	(6.4±0.37) ×10 <sup>0</sup>	(4.0±0.79) ×10 <sup>-1</sup>	(6.2±0.35) ×10 <sup>0</sup>	N. D. [<9.7×10 <sup>-3</sup> ]	N. D. [<9.5×10 <sup>-3</sup> ]	N. D. [<9.5×10 <sup>-3</sup> ]
③産廃処分場近傍(南南西約500m)		(1.7±0.15) ×10 <sup>-1</sup>	(6.1±0.81) ×10 <sup>-2</sup>	(5.7±0.33) ×10 <sup>0</sup>	(2.2±0.55) ×10 <sup>-1</sup>	(5.7±0.33) ×10 <sup>0</sup>	(5.3±0.72) ×10 <sup>-2</sup>	(2.1±0.079) ×10 <sup>0</sup>	(1.0±0.11) ×10 <sup>-1</sup>
1~3号機における平均核種濃度比(Pu-238を1とした場合の比)*3		1	—	—	—	—	0.1	10	1

\*1 : 平成23年7月8日公表    \*2 : 平成23年7月21日公表    \*3 : ORIGENコードによる計算値(概数)

2. 評価

今回検出されたAm及びCmは、以下の理由により、今回の事故に由来することが考えられる。

- ・ Cm-242/Cm-243/Cm-244 は自然界に存在しない核種であり、特に半減期の比較的短いCm-242(半減期: 約160日)が検出されていること
- ・ 試料番号①③のPu-238に対する各核種(Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244)の濃度比が1~3号機における平均組成比とほぼ同じであること

試料番号① Pu-238: (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.2/12/0.6)

試料番号③ Pu-238: (Am-241/Cm-242/Cm-243, Cm-244) ≒ 1 : (0.3/12/0.6)

以上

正

(別紙2)

土壤ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壤分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位: Bq/kg・乾土【日本分析センター】  
Bq/kg・湿土【JAEA】)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2			【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2			【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		④5.6号機サービス ビル前 (北約1,000m)*2	⑤固体廃棄物貯 蔵庫1.2棟近傍 (北約500m)*2	⑥南南西 約500m*2	⑦南南西 約750m*2	⑧南南西 約1,000m*2
	3/21	3/25	3/28	3/25	3/28	3/25	3/28	3/25	3/22	3/22	3/22	3/22	3/22
分析機関	JAEA	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	JAEA	JAEA	JAEA	JAEA	JAEA
測定日	3/24	3/28	3/30	3/28	3/30	3/28	3/30	3/28	3/25	3/25	3/25	3/24	3/25
核 種	I-131(約8日)	5.8E+06	5.7E+06	3.8E+06	3.0E+06	3.9E+04	1.2E+07	2.6E+06	4.6E+05	3.1E+06	7.9E+05	2.2E+06	5.4E+06
	I-132(約2時間)	*4	*4	2.3E+05	*4	1.3E+02	*4	1.5E+05	*4	*4	*4	*4	*4
	Cs-134(約2年)	3.4E+05	4.9E+05	5.3E+05	7.7E+04	3.2E+02	3.5E+06	9.7E+05	6.8E+04	9.5E+05	8.7E+03	1.7E+04	1.6E+05
	Cs-136(約13日)	7.2E+04	6.1E+04	3.3E+04	1.0E+04	2.8E+01	4.6E+05	6.9E+04	8.6E+03	1.1E+05	1.9E+03	2.2E+03	2.5E+04
	Cs-137(約30年)	3.4E+05	4.8E+05	5.1E+05	7.6E+04	3.2E+02	3.5E+06	9.3E+05	6.7E+04	1.0E+06	2.0E+04	1.6E+04	1.6E+05
	Te-129m(約34日)	2.5E+05	2.9E+05	8.5E+05	5.3E+04	ND	2.7E+06	6.0E+05	2.8E+04	8.9E+05	9.5E+03	1.9E+04	1.7E+05
	Te-132(約3日)	6.1E+05	3.4E+05	3.0E+05	6.5E+04	1.4E+02	3.1E+06	2.0E+05	3.2E+04	1.9E+06	2.1E+04	3.9E+04	3.8E+05
	Ba-140(約13日)	1.3E+04	1.5E+04	ND	2.5E+03	ND	ND	ND	ND	8.0E+04	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	1.7E+03	2.4E+03	ND	ND	ND	5.3E+03	ND	ND	8.1E+03	ND	ND	7.9E+02
	Ru-106(約370日)	5.3E+04	ND	ND	6.4E+03	ND	2.7E+05	ND	ND	6.8E+04	1.9E+03	ND	3.2E+04
	Mo-99(約66時間)	2.1E+04	ND	ND	ND	ND	6.6E+04	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	2.3E+04	2.0E+04	ND	ND	ND	4.5E+04	ND	1.8E+03	2.3E+04	ND	ND	8.3E+03
	La-140(約2日)	3.3E+04	3.7E+04	ND	2.3E+03	ND	9.7E+04	ND	2.5E+03	2.1E+05	4.2E+02	6.2E+02	7.8E+03
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.2E+04	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	1.1E+03	2.6E+03	ND	ND	ND	ND	ND	1.7E+02	1.8E+04	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132は親核種であるTe-132で評価)

# 誤

(別紙2)

## 土壤ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壤分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2			【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2			【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		④5.6号機サービス ビル前 (北約1,000m)*2	⑤固体廃棄物貯 蔵庫1.2棟近傍 (北約500m)*2	⑥南南西 約500m*2	⑦南南西 約750m*2	⑧南南西 約1,000m*2
	3/21	3/25	3/28	3/25	3/28	3/25	3/28	3/25	3/22	3/22	3/22	3/22	3/22
分析機関	JAEA	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	JAEA	JAEA	JAEA	JAEA	JAEA
測定日	3/24	3/28	3/30	3/28	3/30	3/28	3/30	3/28	3/25	3/25	3/24	3/25	
核 種	I-131(約8日)	5.8E+06	5.7E+06	3.8E+06	3.0E+06	3.9E+04	1.2E+07	2.6E+06	4.6E+05	3.1E+06	7.9E+05	2.2E+06	5.4E+06
	I-132(約2時間)	*4	*4	2.3E+05	*4	1.3E+02	*4	1.5E+05	*4	*4	*4	*4	*4
	Cs-134(約2年)	3.4E+05	4.9E+05	5.3E+05	7.7E+04	3.2E+02	3.5E+06	9.7E+05	6.8E+04	9.5E+05	8.7E+03	1.7E+04	1.6E+05
	Cs-136(約13日)	7.2E+04	6.1E+04	3.3E+04	1.0E+04	2.8E+01	4.6E+05	6.9E+04	8.6E+03	1.1E+05	1.9E+03	2.2E+03	2.5E+04
	Cs-137(約30年)	3.4E+05	4.8E+05	5.1E+05	7.6E+04	3.2E+02	3.5E+06	9.3E+05	6.7E+04	1.0E+06	2.0E+04	1.6E+04	1.6E+05
	Te-129m(約34日)	2.5E+05	2.9E+05	8.5E+05	5.3E+04	ND	2.7E+06	6.0E+05	2.8E+04	8.9E+05	9.5E+03	1.9E+04	1.7E+05
	Te-132(約3日)	6.1E+05	3.4E+05	3.0E+05	6.5E+04	1.4E+02	3.1E+06	2.0E+05	3.2E+04	1.9E+06	2.1E+04	3.9E+04	3.8E+05
	Ba-140(約13日)	1.3E+04	1.5E+04	ND	2.5E+03	ND	ND	ND	ND	8.0E+04	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	1.7E+03	2.4E+03	ND	ND	ND	5.3E+03	ND	ND	8.1E+03	ND	ND	7.9E+02
	Ru-106(約370日)	5.3E+04	ND	ND	6.4E+03	ND	2.7E+05	ND	ND	6.8E+04	1.9E+03	ND	3.2E+04
	Mo-99(約66時間)	2.1E+04	ND	ND	ND	ND	6.6E+04	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	2.3E+04	2.0E+04	ND	ND	ND	4.5E+04	ND	1.8E+03	2.3E+04	ND	ND	8.3E+03
	La-140(約2日)	3.3E+04	3.7E+04	ND	2.3E+03	ND	9.7E+04	ND	2.5E+03	2.1E+05	4.2E+02	6.2E+02	7.8E+03
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.2E+04	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	1.1E+03	2.6E+03	ND	ND	ND	ND	ND	1.7E+02	1.8E+04	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グランド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132は親核種であるTe-132で評価)

正

(別紙2)

土壤ガンマ線核種分析結果

1. 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壤分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位:Bq/kg・乾土【日本分析センター】  
Bq/kg・湿土【JAEA】)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		
	3/31	4/4	3/31	4/4	3/31	4/4	
分析機関	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	
測定日	4/1	4/6	4/1	4/6	4/1	4/6	
核 種	I-131(約8日)	2.6E+06	8.1E+05	9.5E+03	1.4E+04	5.9E+06	1.6E+06
	I-132(約2時間)	*4	2.8E+04	*4	2.9E+01	*4	5.2E+04
	Cs-134(約2年)	5.0E+05	3.8E+05	1.2E+03	6.7E+02	3.8E+06	8.1E+05
	Cs-136(約13日)	4.6E+04	2.0E+04	1.2E+02	3.7E+01	3.7E+05	4.3E+04
	Cs-137(約30年)	4.9E+05	3.8E+05	1.2E+03	6.7E+02	3.8E+06	7.9E+05
	Te-129m(約34日)	3.2E+05	4.0E+05	ND	4.2E+02	2.2E+06	7.0E+05
	Te-132(約3日)	1.2E+05	3.6E+04	2.7E+02	3.2E+01	8.4E+05	6.6E+04
	Ba-140(約13日)	1.0E+04	ND	ND	ND	3.3E+04	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	2.1E+04	ND	ND	ND	6.1E+04	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	1.1E+04	ND
	La-140(約2日)	1.3E+04	ND	ND	ND	4.7E+04	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	3.2E+03	ND	ND	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グランド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132は親核種であるTe-132で評価)

# 誤

(別紙2)

## 土壤ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壤分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		
	3/31	4/4	3/31	4/4	3/31	4/4	
分析機関	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	
測定日	4/1	4/6	4/1	4/6	4/1	4/6	
核 種	I-131(約8日)	2.6E+06	8.1E+05	9.5E+03	1.4E+04	5.9E+06	1.6E+06
	I-132(約2時間)	*4	2.8E+04	*4	2.9E+01	*4	5.2E+04
	Cs-134(約2年)	5.0E+05	3.8E+05	1.2E+03	6.7E+02	3.8E+06	8.1E+05
	Cs-136(約13日)	4.6E+04	2.0E+04	1.2E+02	3.7E+01	3.7E+05	4.3E+04
	Cs-137(約30年)	4.9E+05	3.8E+05	1.2E+03	6.7E+02	3.8E+06	7.9E+05
	Te-129m(約34日)	3.2E+05	4.0E+05	ND	4.2E+02	2.2E+06	7.0E+05
	Te-132(約3日)	1.2E+05	3.6E+04	2.7E+02	3.2E+01	8.4E+05	6.6E+04
	Ba-140(約13日)	1.0E+04	ND	ND	ND	3.3E+04	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	2.1E+04	ND	ND	ND	6.1E+04	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	1.1E+04	ND
	La-140(約2日)	1.3E+04	ND	ND	ND	4.7E+04	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	3.2E+03	ND	ND	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グランド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132は親核種であるTe-132で評価)

正

(別紙2)

土壤ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壤分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位:Bq/kg・乾土【日本分析センター】  
Bq/kg・湿土【JAEA】)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		
	4/7	4/11	4/7	4/11	4/7	4/11	
分析機関	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	
測定日	4/11	4/13	4/11	4/13	4/11	4/13	
核 種	I-131(約8日)	7.4E+05	3.0E+05	1.6E+04	1.2E+04	2.3E+06	1.1E+06
	I-132(約2時間)	*4	1.1E+03	(2) ND	ND	*4	1.0E+04
	Cs-134(約2年)	3.4E+05	1.4E+05	7.5E+02	6.5E+02	2.0E+06	2.3E+06
	Cs-136(約13日)	2.3E+04	5.7E+03	6.9E+01	2.5E+01	1.5E+05	7.9E+04
	Cs-137(約30年)	3.4E+05	1.4E+05	7.4E+02	6.8E+02	2.1E+06	2.2E+06
	Te-129m(約34日)	3.1E+05	6.6E+04	ND	3.4E+02	1.3E+06	1.1E+06
	Te-132(約3日)	2.6E+04	1.4E+03	ND	ND	1.1E+05	2.3E+04
	Ba-140(約13日)	3.1E+03	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	1.2E+03	ND	ND	ND	4.5E+03	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	*4	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	(2) ND	ND	ND	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グランド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132,La-140はそれぞれ親核種であるTe-132,Ba-140で評価)

# 誤

(別紙2)

## 土壤ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壤分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位: Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		
	4/7	4/11	4/7	4/11	4/7	4/11	
試料採取日	4/7	4/11	4/7	4/11	4/7	4/11	
分析機関	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	
測定日	4/11	4/13	4/11	4/13	4/11	4/13	
核 種	I-131(約8日)	7.4E+05	3.0E+05	1.6E+04	1.2E+04	2.3E+06	1.1E+06
	I-132(約2時間)	*4	1.1E+03	*4	ND	*4	1.0E+04
	Cs-134(約2年)	3.4E+05	1.4E+05	7.5E+02	6.5E+02	2.0E+06	2.3E+06
	Cs-136(約13日)	2.3E+04	5.7E+03	6.9E+01	2.5E+01	1.5E+05	7.9E+04
	Cs-137(約30年)	3.4E+05	1.4E+05	7.4E+02	6.8E+02	2.1E+06	2.2E+06
	Te-129m(約34日)	3.1E+05	6.6E+04	ND	3.4E+02	1.3E+06	1.1E+06
	Te-132(約3日)	2.6E+04	1.4E+03	ND	ND	1.1E+05	2.3E+04
	Ba-140(約13日)	3.1E+03	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	1.2E+03	ND	ND	ND	4.5E+03	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	*4	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	3.2E+03	ND	ND	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グランド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132,La-140はそれぞれ親核種であるTe-132,Ba-140で評価)

土壤ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壤分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位:Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	4/25	4/25	4/25	
分析機関	(財)日本分析センター	(財)日本分析センター	(財)日本分析センター	
測定日	4/27	4/27	4/27	
核種	I-131(約8日)	1.8E+05	1.1E+04	1.1E+05
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.0E+05	4.9E+03	1.5E+05
	Cs-136(約13日)	6.7E+03	8.8E+01	2.5E+03
	Cs-137(約30年)	3.9E+05	5.1E+03	1.5E+05
	Te-129m(約34日)	1.1E+05	1.4E+03	8.3E+04
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND	

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

土壤ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壤分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・湿土)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	4/25	4/25	4/25	
分析機関	(財)日本分析センター	(財)日本分析センター	(財)日本分析センター	
測定日	4/27	4/27	4/27	
核種	I-131(約8日)	1.8E+05	1.1E+04	1.1E+05
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.0E+05	4.9E+03	1.5E+05
	Cs-136(約13日)	6.7E+03	8.8E+01	2.5E+03
	Cs-137(約30年)	3.9E+05	5.1E+03	1.5E+05
	Te-129m(約34日)	1.1E+05	1.4E+03	8.3E+04
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND	

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

土壤ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壤分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・湿土)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	4/28	4/28	4/28	
分析機関	JAEA	JAEA	JAEA	
測定日	5/6	5/6	5/6	
核種	I-131(約8日)	2.6E+05	7.0E+03	(2) 2.0E+05
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	5.3E+05	4.9E+03	6.2E+05
	Cs-136(約13日)	1.1E+04	1.2E+02	1.4E+04
	Cs-137(約30年)	5.4E+05	4.9E+03	6.4E+05
	Te-129m(約34日)	1.7E+05	ND	2.5E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	9.1E+02	ND	1.2E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
Ag-110m(約250日)	2.7E+03	ND	ND	

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

土壤ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壤分析結果>

Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・湿土)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	4/28	4/28	4/28	
分析機関	JAEA	JAEA	JAEA	
測定日	5/6	5/6	5/6	
核種	I-131(約8日)	2.6E+05	7.0E+03	2.2E+05
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	5.3E+05	4.9E+03	6.2E+05
	Cs-136(約13日)	1.1E+04	1.2E+02	1.4E+04
	Cs-137(約30年)	5.4E+05	4.9E+03	6.4E+05
	Te-129m(約34日)	1.7E+05	ND	2.5E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	9.1E+02	ND	1.2E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
Ag-110m(約250日)	2.7E+03	ND	ND	

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

正

(別紙2)

土壤ガンマ線核種分析結果

1. 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壤分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位: Bq/kg・乾土【日本分析センター】  
Bq/kg・湿土【JAEA】)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		
	5/2	5/5	5/2	5/5	5/2	5/5	
試料採取日	5/2	5/5	5/2	5/5	5/2	5/5	
分析機関	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	
測定日	5/3	5/6	5/3	5/6	5/3	5/6	
核 種	I-131(約8日)	6.7E+04	1.7E+05	2.7E+04	3.5E+04	1.0E+05	2.7E+05
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	1.9E+05	5.3E+05	4.5E+03	1.3E+04	3.3E+05	2.2E+06
	Cs-136(約13日)	2.3E+03	7.4E+03	ND	2.3E+02	4.0E+03	3.5E+04
	Cs-137(約30年)	1.7E+05	5.5E+05	4.5E+03	1.4E+04	3.2E+05	2.3E+06
	Te-129m(約34日)	ND	1.6E+05	2.5E+03	5.2E+03	1.3E+05	7.5E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	1.5E+03	ND	ND	ND	3.0E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	3.0E+03	ND	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132,La-140はそれぞれ親核種であるTe-132,Ba-140で評価。)

# 誤

(別紙2)

## 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壌分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位: Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		
	5/2	5/5	5/2	5/5	5/2	5/5	
試料採取日	5/2	5/5	5/2	5/5	5/2	5/5	
分析機関	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	
測定日	5/3	5/6	5/3	5/6	5/3	5/6	
核 種	I-131(約8日)	6.7E+04	1.7E+05	2.7E+04	3.5E+04	1.0E+05	2.7E+05
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	1.9E+05	5.3E+05	4.5E+03	1.3E+04	3.3E+05	2.2E+06
	Cs-136(約13日)	2.3E+03	7.4E+03	ND	2.3E+02	4.0E+03	3.5E+04
	Cs-137(約30年)	1.7E+05	5.5E+05	4.5E+03	1.4E+04	3.2E+05	2.3E+06
	Te-129m(約34日)	ND	1.6E+05	2.5E+03	5.2E+03	1.3E+05	7.5E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	1.5E+03	ND	ND	ND	3.0E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	3.0E+03	ND	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地を、「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向にサンプリング

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132,La-140はそれぞれ親核種であるTe-132,Ba-140で評価)

正

(別紙2)

土壤ガンマ線核種分析結果

1. 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壤分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位: Bq/kg・乾土【日本分析センター】  
Bq/kg・湿土【JAEA】)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		
	5/9	5/12	5/9	5/12	5/9	5/12	
試料採取日	5/9	5/12	5/9	5/12	5/9	5/12	
分析機関	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	
測定日	5/11	5/13	5/11	5/13	5/11	5/13	
核 種	I-131(約8日)	9.4E+04	9.4E+04	2.0E+04	9.9E+03	9.1E+04	1.1E+05
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	5.0E+05	5.0E+05	3.8E+04	1.4E+04	1.1E+05	1.4E+06
	Cs-136(約13日)	5.3E+03	5.4E+03	5.7E+02	1.9E+02	8.6E+03	1.5E+04
	Cs-137(約30年)	5.0E+05	5.2E+05	4.0E+04	1.5E+04	1.1E+06	1.4E+06
	Te-129m(約34日)	1.2E+05	1.3E+05	7.0E+04	3.9E+03	2.7E+05	4.3E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	1.3E+03	ND	ND	ND	1.2E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND	ND	ND	3.3E+03

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地をサンプリング。

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132,La-140はそれぞれ親核種であるTe-132,Ba-140で評価)

# 誤

(別紙2)

## 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壌分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位: Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2		
	5/9	5/12	5/9	5/12	5/9	5/12	
試料採取日	5/9	5/12	5/9	5/12	5/9	5/12	
分析機関	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	日本分析 センター *3	JAEA	
測定日	5/11	5/13	5/11	5/13	5/11	5/13	
核 種	I-131(約8日)	9.4E+04	9.4E+04	2.0E+04	9.9E+03	9.1E+04	1.1E+05
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	5.0E+05	5.0E+05	3.8E+04	1.4E+04	1.1E+05	1.4E+06
	Cs-136(約13日)	5.3E+03	5.4E+03	5.7E+02	1.9E+02	8.6E+03	1.5E+04
	Cs-137(約30年)	5.0E+05	5.2E+05	4.0E+04	1.5E+04	1.1E+06	1.4E+06
	Te-129m(約34日)	1.2E+05	1.3E+05	7.0E+04	3.9E+03	2.7E+05	4.3E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	1.3E+03	ND	ND	ND	1.2E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND	ND	ND	3.3E+03

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地をサンプリング。

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

\*4 放射平衡を形成している親核種と娘核種については、双方の放射能濃度を確認し、同等(1オーダー以内)であれば親核種と娘核種の放射能濃度を上表に記載する。娘核種(特に短半減期核種が対象)が親核種に比べて極端に大きい(2オーダー以上)場合は、親核種の放射能濃度で評価し、親核種の放射能濃度を上表に記載する。(I-132,La-140はそれぞれ親核種であるTe-132,Ba-140で評価)

正

(別紙2)

土壤ガンマ線核種分析結果

1. 測定結果 発電所構内における土壤のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壤のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壤分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位:Bq/kg・乾土【日本分析センター】  
Bq/kg・湿土【日本原子力研究開発機構】)

試料採取場所	【定点①】*1 グラウンド (西北西約500m)*2			【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2			【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2			
	5/16	5/19	5/23	5/16	5/19	5/23	5/16	5/19	5/23	
分析機関	日本分析センター *3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター *3	日本分析センター *3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター *3	日本分析センター *3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター *3	
測定日	5/25	5/24	5/25	5/25	5/24	5/25	5/25	5/24	5/25	
核種	I-131(約8日)	2.6E+04	1.9E+04	3.4E+04	1.9E+03	2.3E+02	6.8E+02	3.2E+04	3.9E+04	3.6E+04
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.9E+05	1.6E+05	5.8E+05	7.4E+03	3.9E+02	3.1E+03	7.8E+05	9.4E+05	1.4E+06
	Cs-136(約13日)	2.2E+03	1.2E+03	2.6E+03	ND	ND	ND	3.2E+03	7.4E+03	5.6E+03
	Cs-137(約30年)	4.9E+05	1.7E+05	5.8E+05	8.0E+03	4.2E+02	3.4E+03	7.9E+05	9.8E+05	1.4E+06
	Te-129m(約34日)	1.4E+05	4.2E+04	1.1E+05	1.2E+03	ND	8.8E+02	1.9E+05	2.9E+05	3.7E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	4.3E+02	ND	ND	ND	ND	ND	1.2E+03	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地をサンプリング。

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

# 誤

(別紙2)

## 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。  
 <H21年度福島県による土壌分析結果>  
 Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位: Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2			【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2			【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2			
	5/16	5/19	5/23	5/16	5/19	5/23	5/16	5/19	5/23	
分析機関	日本分析 センター *3	日本原子力 研究開発機構	日本分析 センター *3	日本分析 センター *3	日本原子力 研究開発機構	日本分析 センター *3	日本分析 センター *3	日本原子力 研究開発機構	日本分析 センター *3	
測定日	5/25	5/24	5/25	5/25	5/24	5/25	5/25	5/24	5/25	
核 種	I-131(約8日)	2.6E+04	1.9E+04	3.4E+04	1.9E+03	2.3E+02	6.8E+02	3.2E+04	3.9E+04	3.6E+04
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.9E+05	1.6E+05	5.8E+05	7.4E+03	3.9E+02	3.1E+03	7.8E+05	9.4E+05	1.4E+06
	Cs-136(約13日)	2.2E+03	1.2E+03	2.6E+03	ND	ND	ND	3.2E+03	7.4E+03	5.6E+03
	Cs-137(約30年)	4.9E+05	1.7E+05	5.8E+05	8.0E+03	4.2E+02	3.4E+03	7.9E+05	9.8E+05	1.4E+06
	Te-129m(約34日)	1.4E+05	4.2E+04	1.1E+05	1.2E+03	ND	8.8E+02	1.9E+05	2.9E+05	3.7E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	4.3E+02	ND	ND	ND	ND	ND	1.2E+03	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

\*1 定点で、「グランド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地をサンプリング。

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

正

(別紙2)

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位:Bq/kg・湿土)

試料採取場所		【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2
試料採取日		5/26	5/26	5/26
分析機関		日本原子力研究開発機構	日本原子力研究開発機構	日本原子力研究開発機構
測定日		5/30	5/30	5/30
核種	I-131(約8日)	2.6E+04	4.8E+02	2.9E+04
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.9E+05	1.3E+03	1.2E+06
	Cs-136(約13日)	2.6E+03	ND	7.3E+03
	Cs-137(約30年)	5.1E+05	1.3E+03	1.3E+06
	Te-129m(約34日)	1.2E+05	ND	2.3E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	5.0E+02	ND	1.4E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
Ag-110m(約250日)	2.4E+03	ND	ND	

\*1 定点で、「グランド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地をサンプリング。

\*2 1,2号機スタックからの距離

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位: Bq/kg・土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	5/26	5/26	5/26	
分析機関	日本原子力研究開発機構	日本原子力研究開発機構	日本原子力研究開発機構	
測定日	5/30	5/30	5/30	
核種	I-131(約8日)	2.6E+04	4.8E+02	2.9E+04
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.9E+05	1.3E+03	1.2E+06
	Cs-136(約13日)	2.6E+03	ND	7.3E+03
	Cs-137(約30年)	5.1E+05	1.3E+03	1.3E+06
	Te-129m(約34日)	1.2E+05	ND	2.3E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	5.0E+02	ND	1.4E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	2.4E+03	ND	ND

\*1 定点で、「グランド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングポイントが重ならないよう隣接地をサンプリング。

\*2 1,2号機スタックからの距離

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位: Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	5/30	5/30	5/30	
分析機関	日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3	
測定日	6/1	6/1	6/1	
核種	I-131(約8日)	1.3E+04	7.3E+01	1.5E+04
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	3.6E+05	1.9E+02	7.7E+05
	Cs-136(約13日)	1.0E+03	ND	1.6E+03
	Cs-137(約30年)	3.7E+05	2.2E+02	8.1E+05
	Te-129m(約34日)	4.1E+04	ND	2.2E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位: Bq/kg・土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	5/30	5/30	5/30	
分析機関	日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3	
測定日	6/1	6/1	6/1	
核種	I-131(約8日)	1.3E+04	7.3E+01	1.5E+04
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	3.6E+05	1.9E+02	7.7E+05
	Cs-136(約13日)	1.0E+03	ND	1.6E+03
	Cs-137(約30年)	3.7E+05	2.2E+02	8.1E+05
	Te-129m(約34日)	4.1E+04	ND	2.2E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

正

(別紙2)

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位: Bq/kg・湿土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	6/2	6/2	6/2	
分析機関	日本原子力研究開発機構	日本原子力研究開発機構	日本原子力研究開発機構	
測定日	6/3	6/3	6/3	
核種	I-131(約8日)	1.8E+04	3.3E+02	2.0E+04
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	6.7E+05	2.2E+03	1.7E+06
	Cs-136(約13日)	2.7E+03	ND	6.1E+03
	Cs-137(約30年)	7.1E+05	2.4E+03	1.8E+06
	Te-129m(約34日)	8.3E+04	ND	3.1E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	8.8E+02	ND	1.4E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	3.3E+03	ND	2.5E+03

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

## 福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

1. 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>

Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・土)

試料採取場所		【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2
試料採取日		6/2	6/2	6/2
分析機関		日本原子力研究開発機構	日本原子力研究開発機構	日本原子力研究開発機構
測定日		6/3	6/3	6/3
核種	I-131(約8日)	1.8E+04	3.3E+02	2.0E+04
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	6.7E+05	2.2E+03	1.7E+06
	Cs-136(約13日)	2.7E+03	ND	6.1E+03
	Cs-137(約30年)	7.1E+05	2.4E+03	1.8E+06
	Te-129m(約34日)	8.3E+04	ND	3.1E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	8.8E+02	ND	1.4E+03
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	3.3E+03	ND	2.5E+03

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

正

(別紙2)

**福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果**

1. 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>

Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位:Bq/kg・乾土【日本分析センター】  
Bq/kg・湿土【日本原子力研究開発機構】)

試料採取場所		【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日		6/6	6/9	6/6	6/9	6/6	6/9
分析機関		日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構
測定日		6/8	6/10	6/8	6/10	6/8	6/10
核 種	I-131(約8日)	7.2E+03	9.3E+03	3.6E+01	5.2E+01	6.8E+03	7.9E+03
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.5E+05	5.8E+05	3.5E+02	4.6E+02	6.7E+05	1.2E+06
	Cs-136(約13日)	1.4E+03	1.5E+03	ND	ND	1.9E+03	3.3E+03
	Cs-137(約30年)	4.6E+05	6.2E+05	3.5E+02	4.8E+02	7.0E+05	1.3E+06
	Te-129m(約34日)	8.6E+04	5.6E+04	ND	ND	1.8E+05	2.0E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	6.9E+02	ND	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	2.5E+03	ND	ND	ND	1.6E+03

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない



(別紙2)

### 福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位: Bq/kg・土)

試料採取場所		【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2		【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2		【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日		6/6	6/9	6/6	6/9	6/6	6/9
分析機関		日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構
測定日		6/8	6/10	6/8	6/10	6/8	6/10
核種	I-131(約8日)	7.2E+03	9.3E+03	3.6E+01	5.2E+01	6.8E+03	7.9E+03
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.5E+05	5.8E+05	3.5E+02	4.6E+02	6.7E+05	1.2E+06
	Cs-136(約13日)	1.4E+03	1.5E+03	ND	ND	1.9E+03	3.3E+03
	Cs-137(約30年)	4.6E+05	6.2E+05	3.5E+02	4.8E+02	7.0E+05	1.3E+06
	Te-129m(約34日)	8.6E+04	5.6E+04	ND	ND	1.8E+05	2.0E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	6.9E+02	ND	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	2.5E+03	ND	ND	ND	1.6E+03

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

正

(別紙2)

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>

Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位:Bq/kg・乾土【日本分析センター】  
Bq/kg・湿土【日本原子力研究開発機構】)

試料採取場所		【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2				【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2				【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2			
試料採取日		6/13	6/16	6/20	6/23	6/13	6/16	6/20	6/23	6/13	6/16	6/20	6/23
分析機関		日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構	日本分析センター*3	日本原子力研究開発機構
測定日		6/16	6/17	6/22	6/24	6/16	6/17	6/22	6/24	6/16	6/17	6/22	6/24
核種	I-131(約8日)	3.5E+03	4.6E+03	2.9E+03	1.5E+03	7.8E+01	ND	ND	ND	3.2E+03	7.6E+03	ND	ND
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.6E+05	6.4E+05	4.6E+05	4.8E+05	3.8E+03	2.6E+03	9.9E+02	3.7E+03	4.8E+05	2.2E+06	2.1E+06	1.1E+06
	Cs-136(約13日)	ND	1.6E+03	9.9E+02	7.0E+02	ND	ND	ND	ND	ND	3.5E+03	2.7E+03	1.6E+03
	Cs-137(約30年)	4.7E+05	6.9E+05	4.8E+05	5.2E+05	4.1E+03	2.7E+03	1.1E+03	4.2E+03	5.0E+05	2.3E+06	2.2E+06	1.2E+06
	Te-129m(約34日)	8.0E+04	1.1E+05	6.4E+04	9.1E+04	ND	ND	ND	ND	7.4E+04	3.2E+05	3.8E+05	1.6E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	9.4E+02	ND	9.2E+02	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.0E+03	ND	1.9E+03

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>

Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・土)

試料採取場所		【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2				【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2				【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2			
試料採取日		6/13	6/16	6/20	6/23	6/13	6/16	6/20	6/23	6/13	6/16	6/20	6/23
分析機関		日本分析 センター*3	日本原子力 研究開発機構	日本分析 センター*3	日本原子力 研究開発機構	日本分析 センター*3	日本原子力 研究開発機構	日本分析 センター*3	日本原子力 研究開発機構	日本分析 センター*3	日本原子力 研究開発機構	日本分析 センター*3	日本原子力 研究開発機構
測定日		6/16	6/17	6/22	6/24	6/16	6/17	6/22	6/24	6/16	6/17	6/22	6/24
核 種	I-131(約8日)	3.5E+03	4.6E+03	2.9E+03	1.5E+03	7.8E+01	ND	ND	ND	3.2E+03	7.6E+03	ND	ND
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.6E+05	6.4E+05	4.6E+05	4.8E+05	3.8E+03	2.6E+03	9.9E+02	3.7E+03	4.8E+05	2.2E+06	2.1E+06	1.1E+06
	Cs-136(約13日)	ND	1.6E+03	9.9E+02	7.0E+02	ND	ND	ND	ND	ND	3.5E+03	2.7E+03	1.6E+03
	Cs-137(約30年)	4.7E+05	6.9E+05	4.8E+05	5.2E+05	4.1E+03	2.7E+03	1.1E+03	4.2E+03	5.0E+05	2.3E+06	2.2E+06	1.2E+06
	Te-129m(約34日)	8.0E+04	1.1E+05	6.4E+04	9.1E+04	ND	ND	ND	ND	7.4E+04	3.2E+05	3.8E+05	1.6E+05
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	9.4E+02	ND	9.2E+02	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.0E+03	ND	1.9E+03

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

正

(別紙2)

**福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果**

- 1. 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

＜H21年度福島県による土壌分析結果＞  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位:Bq/kg・乾土)

試料採取場所		【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2
試料採取日		6月27日	6月27日	6月27日
分析機関		日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3
測定日		7月4日	7月4日	7月4日
核	I-131(約8日)	ND	ND	ND
種	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	5.3E+05	7.1E+03	2.4E+05
	Cs-136(約13日)	ND	ND	ND
	Cs-137(約30年)	5.4E+05	7.8E+03	2.5E+05
	Te-129m(約34日)	ND	ND	6.2E+04
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)  
 \*2 1,2号機スタックからの距離  
 \*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

## 福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

1. 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>

Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2
試料採取日	6月27日	6月27日	6月27日
分析機関	日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3
測定日	7月4日	7月4日	7月4日
核種			
I-131(約8日)	ND	ND	ND
I-132(約2時間)	ND	ND	ND
Cs-134(約2年)	5.3E+05	7.1E+03	2.4E+05
Cs-136(約13日)	ND	ND	ND
Cs-137(約30年)	5.4E+05	7.8E+03	2.5E+05
Te-129m(約34日)	ND	ND	6.2E+04
Te-132(約3日)	ND	ND	ND
Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
La-140(約2日)	ND	ND	ND
Be-7(約53日)	ND	ND	ND
Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位: Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2
試料採取日	7月4日	7月4日	7月4日
分析機関	日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3
測定日	7月8日	7月8日	7月8日
核種			
I-131(約8日)	ND	1.1E+02	ND
I-132(約2時間)	ND	ND	ND
Cs-134(約2年)	4.2E+05	4.5E+03	1.1E+05
Cs-136(約13日)	ND	ND	ND
Cs-137(約30年)	4.4E+05	5.1E+03	1.1E+05
Te-129m(約34日)	ND	ND	ND
Te-132(約3日)	ND	ND	ND
Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
La-140(約2日)	ND	ND	ND
Be-7(約53日)	ND	ND	ND
Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

## 福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

1. 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
2. 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位: Bq/kg・土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2
試料採取日	7月4日	7月4日	7月4日
分析機関	日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3
測定日	7月8日	7月8日	7月8日
核種			
I-131(約8日)	ND	1.1E+02	ND
I-132(約2時間)	ND	ND	ND
Cs-134(約2年)	4.2E+05	4.5E+03	1.1E+05
Cs-136(約13日)	ND	ND	ND
Cs-137(約30年)	4.4E+05	5.1E+03	1.1E+05
Te-129m(約34日)	ND	ND	ND
Te-132(約3日)	ND	ND	ND
Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
La-140(約2日)	ND	ND	ND
Be-7(約53日)	ND	ND	ND
Ag-110m(約250日)	ND	ND	ND

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位: Bq/kg・乾土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	7月11日	7月11日	7月11日	
分析機関	日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3	
測定日	7月14日	7月14日	7月14日	
核種	I-131(約8日)	ND	ND	ND
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.0E+05	1.4E+03	2.4E+05
	Cs-136(約13日)	ND	ND	ND
	Cs-137(約30年)	4.3E+05	1.4E+03	2.6E+05
	Te-129m(約34日)	ND	ND	4.0E+04
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	1.9E+03	ND	6.4E+03

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

福島第一原子力発電所 土壌ガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>  
Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位: Bq/kg・土)

試料採取場所		【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2
試料採取日		7月11日	7月11日	7月11日
分析機関		日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3
測定日		7月14日	7月14日	7月14日
核種	I-131(約8日)	ND	ND	ND
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	4.0E+05	1.4E+03	2.4E+05
	Cs-136(約13日)	ND	ND	ND
	Cs-137(約30年)	4.3E+05	1.4E+03	2.6E+05
	Te-129m(約34日)	ND	ND	4.0E+04
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	1.9E+03	ND	6.4E+03

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない

福島第一原子力発電所 土壌中のガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>

Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(6) (単位:Bq/kg・乾土)

試料採取場所		【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2
試料採取日		7月18日	7月18日	7月18日
分析機関		日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3
測定日		7月21日	7月21日	7月21日
核種	I-131(約8日)	ND	ND	ND
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	6.7E+05	2.0E+02	2.3E+05
	Cs-136(約13日)	ND	ND	ND
	Cs-137(約30年)	7.1E+05	2.8E+02	2.4E+05
	Sb-125(約3年)	1.3E+04	ND	ND
	Te-129m(約34日)	4.8E+05	ND	ND
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
	Ag-110m(約250日)	3.3E+03	ND	ND

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない



(別紙2)

### 福島第一原子力発電所 土壌中のガンマ線核種分析結果

- 測定結果 発電所構内における土壌のガンマ線核種分析結果は下表の通り。Puの分析を行った全試料について分析を行った。
- 評価 平成21年度に福島県で測定した土壌のガンマ線核種分析結果は以下の通りであり、これと比較して高い濃度の放射性物質が検出されている。

<H21年度福島県による土壌分析結果>

Cs-137:ND~21Bq/kg・乾土、その他:ND

(単位:Bq/kg・土)

試料採取場所	【定点①】*1 グランド (西北西約500m)*2	【定点②】*1 野鳥の森 (西約500m)*2	【定点③】*1 産廃処分場近傍 (南南西約500m)*2	
試料採取日	7月18日	7月18日	7月18日	
分析機関	日本分析センター*3	日本分析センター*3	日本分析センター*3	
測定日	7月21日	7月21日	7月21日	
核種	I-131(約8日)	ND	ND	ND
	I-132(約2時間)	ND	ND	ND
	Cs-134(約2年)	6.7E+05	2.0E+02	2.3E+05
	Cs-136(約13日)	ND	ND	ND
	Cs-137(約30年)	7.1E+05	2.8E+02	2.4E+05
	Sb-125(約3年)	1.3E+04	ND	ND
	Te-129m(約34日)	4.8E+05	ND	ND
	Te-132(約3日)	ND	ND	ND
	Ba-140(約13日)	ND	ND	ND
	Nb-95(約35日)	ND	ND	ND
	Ru-106(約370日)	ND	ND	ND
	Mo-99(約66時間)	ND	ND	ND
	Tc-99m(約6時間)	ND	ND	ND
	La-140(約2日)	ND	ND	ND
	Be-7(約53日)	ND	ND	ND
Ag-110m(約250日)	3.3E+03	ND	ND	

\*1 「①グランド」「③産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「②野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

\*2 1,2号機スタックからの距離

\*3 日本分析センターにおける分析結果は、試料採取時までの半減期補正を行っていない